

## 今村復興大臣ぶら下がり会見録

(平成28年8月8日(月) 15:33～15:38 於) 宮城県庁)

### 1. 質疑応答

(問) まずは、村井知事からの要望を受けての御所見をお聞かせください。

(答) 正に現場第一主義でやってこられて、いろんな課題をしっかりと把握しておられて的確にお話しいただいたので、なるほどなと思いました。

(問) 4つほど要望がありましたけれども、それについてはどのようにお考えでしょうか。

(答) 是非しっかりと受け止めてやる。そして、また必ずこれはやれることだというふうに思いました。

(問) それから、大臣として、今、被災地での最大の課題は何だとお考えでしょうか。

(答) 一つにはまだまだ住宅の問題等々遅れているところもあります。これを1日も早くピッチを上げて進めるということ。そして、もう一つは先ほども言いましたが、いろんな未来への希望ということを施策を講じて、そして、それをエネルギーにして、あるいは牽引力にして全体を引っ張っていくと。そして、被災前以上の高みを目指した地域づくりということを是非やっていきたいというふうに思っております。

(問) それから、被災地の人から復興大臣が短い期間で替わり過ぎるんじゃないかという声もあるんですけども、その点についてはどのようにお考えでしょうか。

(答) 御指摘の点はあると思います。しかし、私も総理から頼むぞということと言われたわけにありますから、その期待に応えるように立派な仕事をして、それによって被災地の皆様方に評価をしてもらおうということに取り組んでいきたいというふうに思っています。

それから、もう一つよく言われるのは、被災地とは遠いところから来ているねということも言われるんです。しかし、これはある意味では、東北の復興というのはオールジャパンでやるということですから、私のような九州の人たちも、私は例えばこうやって復興大臣になったということで、私の地元の支援者の皆さん方も、よし、それならもう一つふんどしを締めて東北を応援してやろうじゃないかと。何かあったら言ってくださいという声が上がっていますので、そういうことに取り組んでいきたいというふうに思っております。

(問) 先ほど大臣は住宅、生活の再建と未来への希望ということ課題としておっしゃいました。今、大臣としてこれに向けて取り組もう、国としてどういうふうに取り組むべきだとお考えでしょうか。

(答) どこが引っ掛かっているのかという問題点は大体分かってきているわけですから、そういったところを精力的に解決していくということです、まず住宅等の問題については。そのために弾力的な運用ということも、これは当然やらなきゃいけないというふうに思っております。そして、何といたっても5年たって、先ほど言ったように、いろんな課題が浮き彫りになってきていますから、是非そういったものを、繰り返しになりますが、しっかりとやっていくことにだけ皆さんの心に寄り添いながらやることが大事だと思っております。

(問) 2020年に東京オリンピックを前にして、やはり被災地からはオリンピックのことが割と力を入れられて被災地が忘れられるんじゃないかという懸念の声もありますけれども、そういったことについてはどのようにお考えでしょうか。

(答) これは福島でもそうでしょうけれども、是非東北の復興ということで、先ほど言いました未来への希望あるいは牽引力、そういったことの大きな力になるというふうに思っております。ちょうど幸いに、今度5種目18競技も追加になりました。新旧のオリンピック担当の大臣の話ではそういう話がちょっと出ておりますので、私としても新しい大臣、あるいは小池知事にしっかりお願いして、是非東北にいろんなオリンピック関連の競技であるとか、あるいはキャンプであるとか、そういったことを引っ張ってこれるように全力を尽くして頑張っていきたいというふうに思っております。

(以 上)